１．旅の始まり

成田で

ブルガリア（ソフィア）への直行便はなく、最短時間、最安値はアエロフロートを利用してのモスクワ乗り換えだった。この航空会社は座席のインターネット予約などできない（料金クラスによってはできる）ので、通路側の席を取るために早々と家を出る。

これまで海外へ出かけるときは、何となく土日を避けていた。しかし今回は旅行代理店の手違いから、11月30日の日曜日が出発となった。いつもならばラッシュアワーの混雑に揉まれ、カバンが周囲に迷惑をかけていると肩身の狭い思いでいた。ところがいざ小田急線に乗り込んでみると、（当然ながら）ガラガラの車内、今まで意味のない先入観に囚われていたことを反省する。

日暮里で乗り換え、昨年7月に開業したスカイライナー（成田アクセス線経由）を利用する。この列車は在来線（狭軌）では国内最高の時速160キロで走り、路線が短縮されたこともあり、空港まで約40分で到達できる。遠くて不便と思い込んでいた成田空港に対する認識も改めなければならない。

頑張って早出したかいがあり、チェックインの順番は一桁だった。カバン一つを預け、通路側の席を希望する。座席番号は28B。これで通路側かと確認すると座席表を見せられた。両側が2席、中央部が3席の、比較的小型な飛行機だった。

早出した分、搭乗までの時間が長い。しかしこれはほぼ毎度なことで、対処にも慣れている。先ず本屋へ寄って、機内で読む物として文庫本、「のぼうの城」上・下合わせて960円を購入。レストラン街にある、「菜の里」で乾杯セット1,250円を注文。酒（またはビール）一杯とおつまみが二品セットになっている。

買ったばかりの本を読みながら時間潰し。酒二杯を追加し昼酒を切り上げ、出国審査を通って免税店へ。タンカレー（ロンドン・ジン）の750ccを購入。店員に行き先を訊かれソフィアだと答えると、モスクワ乗り継ぎでセキュリティ・チェックにより没収される可能性があるので売らないと云う。

今までの経験からすると免税店の情報はさっぱり当てにならないし、没収されるかどうか確かめたい気持ちもあった。取られても高々1,600円だ。すると店員はカウンターの下から紙を取り出しサインしろと云う。没収されても免税店に文句を云わないという念書だ。半ば呆れ、不愉快でもあったがともかく購入。

こうまでして買い込んだのは、多少なりとも昼酒の酔い、そしてモスクワ空港の免税店品揃えに対する不安、さらには紀行文を書き続けているうちにはぐくまれた、「体験してそれをネタに文を書く。」執筆者魂などに背中を押されたせいだ。

しかし実際にはモスクワ・シェレメーチエヴォ空港の免税店は規模的に成田の数倍で、品揃えも勝っているように思えた。航空旅客数が成田の半数以下であることを考えると、国策として免税店に力を入れているのかもしれない。

そして問題のセキュリティ・チェックでは、酒壜など一顧だにされなかった。何とも拍子抜けの結果だ。

アエロフロートとモスクワ・シェレメーチエヴォ空港

話を戻す。成田→モスクワのSU576便はボーイングA767-300で、かなり年期の入った機体だった（この機種は約30年前から供給されている）。座席はビニール被覆だし、読書灯スイッチが窓際席と通路席で逆になっている。ヨーロッパの航空会社であれば、少なくとも一人の日本人乗務員がいるのに、機内アナウンスの日本語はいかにもたどたどしいものだ。

しかしそれもこれもご愛敬だと思う。飛行機は事故がなくて、トイレが正常に使えるならば、それ以上あまり多くを求めない。そしてスチュワーデス達は垢抜けていないものの、真面目によく働きサービス精神もある。そんなことでモスクワまでの10時間は、先ほど買った「のぼうの城」を読んだりしながら無事過ごすことができた。

到着したターミナルDは2009年の竣工、乗り継ぐターミナルFは最近補修されたらしく、どちらも真新しい感じがするし、洗練された質の良さが見受けられる。この点に関しても先入観は完全に覆された。

モスクワから乗り継ぐSU3560はコードシェア（共同運航便）で、日曜日はブルガリア航空が担当している。コンピュータが接続されていないためか、成田では座席が決まらなかった。Fターミナルの乗り継ぎカウンターで7時からチェックインが開始される。

窓口の60前後に見えるオバサンは、珍しいことに日本語で説明してくれた。窓口を去るときにアリガトオと礼を云うと、穏やかに頬笑み返してくれた。

チェックインが済んでも搭乗開始までには1時間半以上ある。しかしシェレメーチエヴォ空港でセキュリティ・チェック/出入国管理通過後エリアの飲食店は成田を遙かに凌駕し、カフェテリアやバー、レストランなど多様な選択肢であちらこちらにある。

一通り店の様態を見物した後、アイリッシュバーに入りカウンターでギネスを飲んだ。500ccのジョッキが335ルーブル（885円）。この後バーを出て、カフェテリアでサンドイッチ490ルーブル（1,274円）を買う。ソフィア到着は午後10時で、ホテルに着いてからレストランなど利用できない場合に備えた。

ほぼ定刻に搭乗、離陸したFB364（アエロフロートのコードではSU3560）はエアバスA32で、8割ほどの混み具合だ。そしてモスクワまで機内の9割ほどを占めていた日本人はどこへ行ってしまったのか、今は私一人だけとなった。

スチュワーデスは3人で、いずれも容姿人並み以上だ。ブルガリア人が美人系なのか、スチュワーデスが職種として高い人気なのか、旅が始まったばかりなので判断できない。

モスクワを飛び立ったのが午後9時5分で、着陸が10時だけれど、時差があるので飛行時間は2時間55分になる。この飛行もいたって順調で、定刻着陸、入国手続き、荷物のピックアップ、通関を滞りなく済ませる。

ちなみに出入国管理官は中年女性だったが、日本人が珍しいのか、旅行目的などあれこれ、事務処理をしながら気さくに話しかけてくる。ところが1年間のブランクにより、英語が口から出てこない。ブランクがなくても所詮はカタコトだけれど、それなりに口数は足りていた。それが今や完全に錆び付き、一言一言を文字通り絞り出すようにして答えなければならなかった。